

■ 事業のセールスポイント

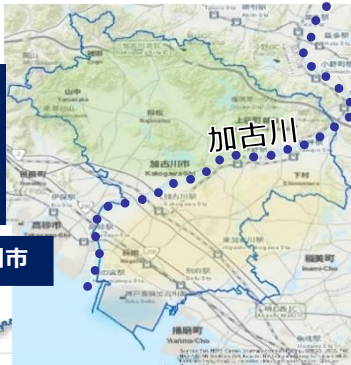
周辺自治体との都市間連携により広域見守りサービス(見守りタグ検知アプリ)や広域防災サービス(ワンコイン浸水センサー等)の広域展開等に関する検証を行うとともに、加古川駅周辺エリアにおいてAIカメラ等からの取得データやPLATEAUを活用したスマートプランニングの検証を行う。

■ 対象区域の概要

名称	加古川市全域
面積	約 138 km ²
人口	約 25.7 万人

位置図

自然と歴史にあふれる東播磨地域の中核都市



■ 都市の課題

- ✓ 都市防犯力の向上
- ✓ 都市防災力の向上
- ✓ 自治体の枠を超えた広域サービスの展開
- ✓ 加古川駅周辺の賑わい創出(今後の駅前再開発を見据えたエリアビジョンとの連携)

①広域見守り

②スマートプランニング

③広域防災

■ 解決方法

①広域見守り

✓ 見守りタグ検知アプリを活用した**広域見守りサービス実証・スキーム検討**を通じて、行政界を超えた**市民の見守りを実現**

②スマートプランニング

✓ AIカメラや赤外線センサーなどのセンシング技術を活用した**エリアでの人流やモビリティの自動計測等**を通じて、今後の都市の**モニタリング活用**に寄与

③広域防災

✓ センサーの市内増設と近隣自治体の広域設置、収集データの**共同利用**を通じて、**広域防災の醸成**や**迅速な判断・運用の実現**

■ 運営体制

推進主体：かこがわICTまちづくり協議会

加古川市

株式会社 日建設計総合研究所

総合警備保障株式会社

株式会社フューチャーリンクネットワーク

株式会社長大

■ KPI(目標)

実証	KPI	目標値	目標年次
①広域見守り	地域の安全対策への満足度	65%	R8年度
②スマートプランニング	加古川駅周辺の都心魅力の満足度	60%	R8年度
③広域防災	地域の防災体制への満足度	65%	R8年度

■本実行計画の概要(実証メニューのロードマップ)

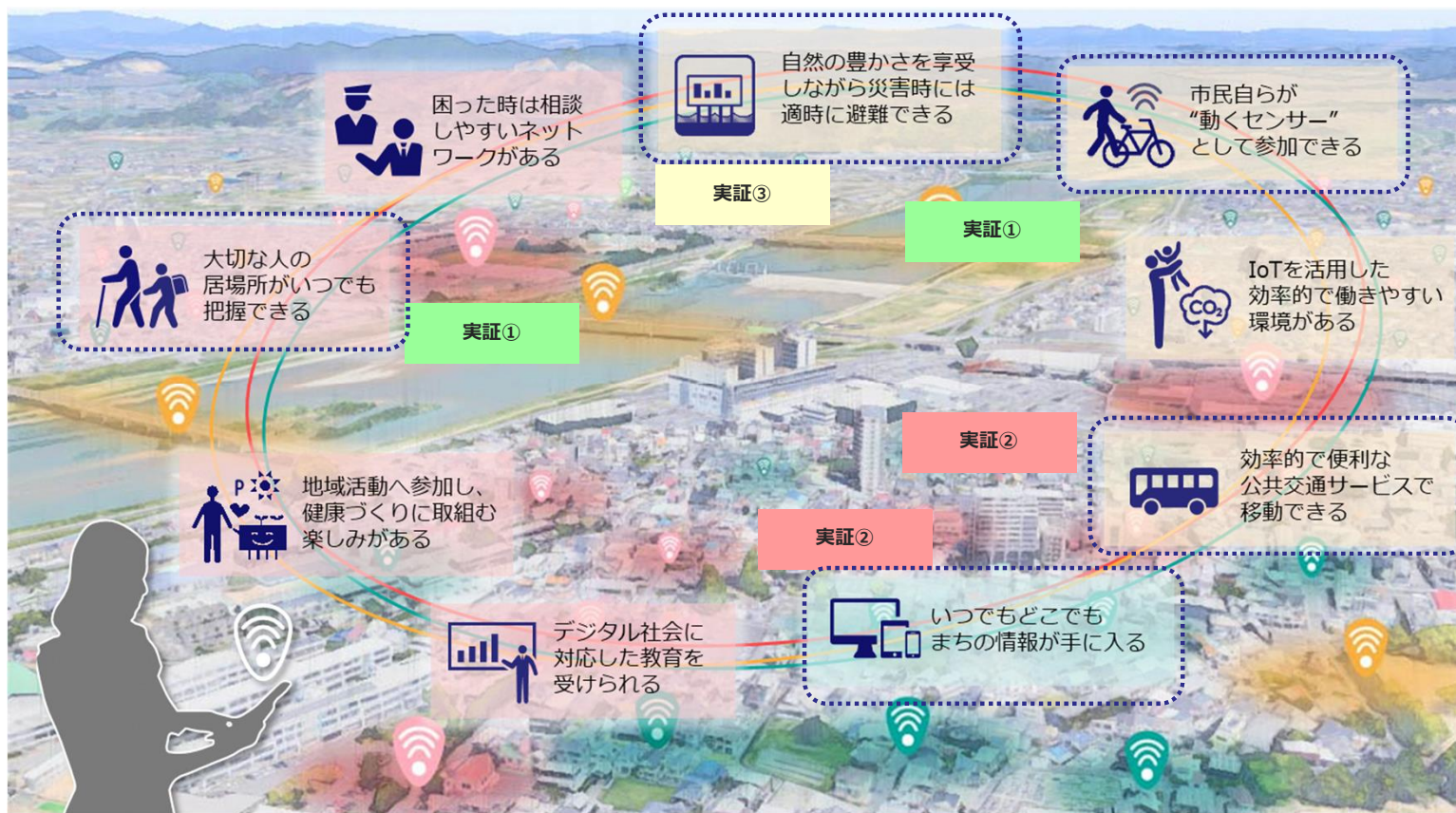
取組内容	2022	2023	2024	2025	中長期
【①広域見守り】次世代見守りサービスの展開	実証	広域実証		実装	継続
【②スマートプランニング】3D都市モデルと人流センシングデータを活用した加古川駅前等の回遊状況検証	開発	試行実証	拡大実証	実装	継続
【③広域防災】広域防災力の向上(ワンコイン浸水センサー活用等)	実証	広域実証		実装	継続

誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川
 ～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス

【まち】都市機能の強化や都市課題の解決

【行政】デジタル行政の推進



- 【①広域見守り】広域見守りサービスの実装に向けた機能強化・サービススキーム構築
- 【②スマートプランニング】センシング技術による人流・モビリティ情報を活用したスマートプランニングへの展開
- 【③広域防災】浸水センサー(ワンコインセンサー)の広域設置・都市OSを含めた共同利用

■ 実証実験の内容

①広域見守り

- ✓ R2国交省SC実証において開発した「見守りタグ検知アプリ」の『ボランティア貢献度把握(検知回数や稼働時間)』に関する機能を強化
- ✓ データの管理・活用(個人情報配慮)、各種規約等の検討、都市OSの更新



見守りタグ検知アプリ

②スマートプランニング

- ✓ AIカメラ、赤外線センサー設置による詳細な都市活動把握
- ✓ シェアサイクル利用データ分析
- ✓ 上記データの3D都市モデルへの重畳・分析、都市OSの更新
- ✓ 公共交通利用促進のための最適な情報提供(駅前サインージ設置検討)



高度化カメラ機器
(製造中)

③広域防災

- ✓ 市内のワンコイン浸水センサーを増設
- ✓ 近隣自治体に同センサーを設置。共同利用(広域防災サービス)の実装可能性を検証



ワン
コイン
センサー

■ 実証実験で得られた成果・知見

①広域見守り

- ✓ アプリの機能強化を図ることで、固定検知器を補完できる移動式検知器の1つとして一定の役割を果たせることが確認できた。市域を超えた検知も確認。
- ✓ 「広域サービス実装検討連絡会(11自治体参加)」を3回開催し、2自治体(三木市・三田市)が実証に参加。サービススキーム等について自由闊達な意見交換を行い、関心の高さと更なる詳細検討の必要性を確認。

②スマートプランニング

- ✓ センシングデータを可視化し、平常時と駅前・かわまちづくり・商店街イベント時の人流を分析し、今後のイベント効果や都市のモニタリングへの活用展開などその有用性を確認。また、3Dでのデータ重畳を行い、視覚的な分かりやすさなどの訴求力向上を確認。
- ✓ シェアサイクルの利用の伸びとCO₂削減効果を把握。

③広域防災

- ✓ センサー情報を広域でダッシュボードで可視化することで、①同様に連絡会での活発な意見交換や5自治体の実証参加を通じて、広域防災の取組や意識醸成の契機となった。



- 【①広域見守り】 広域見守りサービスの実装に向けたスキームの詳細検討(広域連絡会,広域実証展開)
- 【②スマートプランニング】 加古川駅前再開発計画や立地適正化計画のモニタリングに向けたデータ活用
- 【③広域防災】 広域防災サービスの実装に向けたスキームの詳細検討(広域連絡会,実運用への活用)

■ 実証実験で得られた課題

①広域見守り

- ✓ アプリの機能強化によりタグ検知の実効性は確認できたものの、今後は更に取組推進のためのインセンティブを企図した地域ポイント等との連携が課題。
- ✓ スキームの方向性は概ね見えてきたものの、各自治体から個別の意見やニーズが多数寄せられたため、よりきめ細かなアプローチと対応が必要。他自治体は実証初期段階のため、取組状況に応じた柔軟な料金設定、提供サービス内容等の調整が必要。

②スマートプランニング

- ✓ AIカメラの人流が多い箇所での解析精度や、トラブルによる突発的一時的なデータ欠損等に課題があり、どのような利用条件であれば実際の計画策定の根拠データとして耐え得うるかの更なる検証が必要。
- ✓ シェアサイクル利用者増に対する具体方策検討が必要。
- ✓ 駅前サインージの仕様に基づく実装方法の検討。

③広域防災

- ✓ ダッシュボードで一元集約・可視化することにより、参加自治体からの意見が活性化。発災時の判断・運用フローが自治体で異なるため、それらの調整が必要。

■ 今後の取組:スケジュール

取組	2024	2025	2026~
①広域見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・広域実証 ・広域連絡会を継続開催しつつ、付加価値の高いサービススキームと個別調整が必要な部分を関係者協議し、2025年度の実装を実現することを目標とする 	実装	継続
②スマートプランニング	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大実証(駅前再開発計画や立地適正化計画等のモニタリングへの活用) ・上位計画や利用実績を見据えた具体的なシェアサイクルポートの増設・配置検討 ・サインージの設置・運用 	実装	継続
③広域防災	<ul style="list-style-type: none"> ・広域実証 ・2025年度の実装を見据えた運用方法と、広域展開による各自治体に還元できる付加価値の明示 	実装	継続